





全体説明



報告者　郡山市 市民部
セーフコミュニティ課長　伊藤　聖隆

Ⅰ 郡山市の概要

Ⅰ－1　位置、面積、人口

郡山市

面　積　　757 ㎢（61位）

人　口　312,873 人（63位）

※全国792市中の順位

※2025年10月１日 国勢調査人口



福島県のほぼ中央に位置する。

Ⅰ-2　交通網

郡山市



高速道路、国道、鉄道が交差、交通量が多い

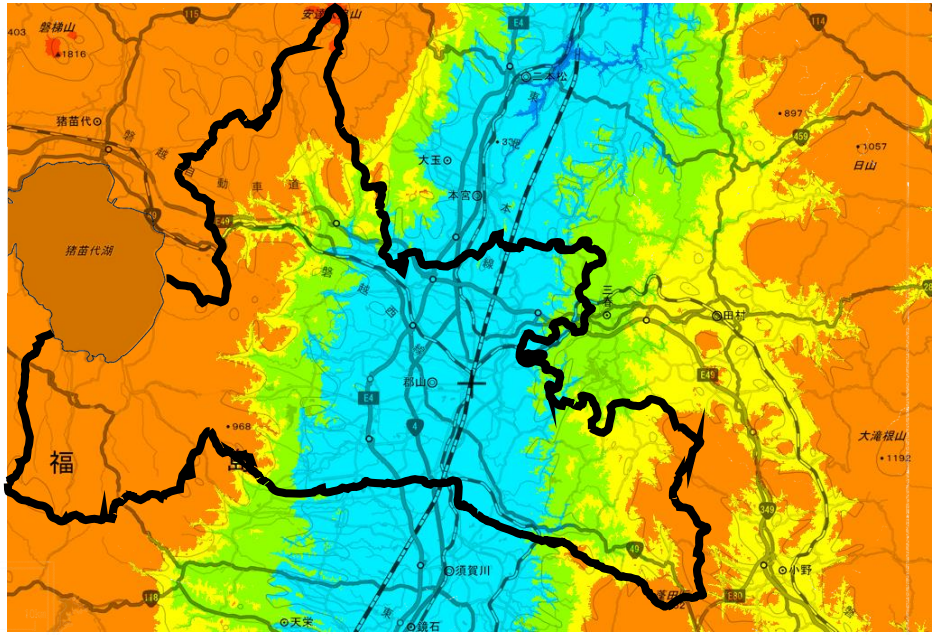
○ 地　理

・**盆地に中心市街地を形成**

（近隣市町村を含む商業圏の中心）

・**都市部は面積の約９％**

（住宅６割、商業１割、工業３割）



・標高は

約２００ｍ～約１，７００ｍ

・居住地の標高

約２２０ｍ～約５７０ｍ

・猪苗代湖の標高

約５１０ｍ



国土地理院の地理院地図を加工して作成

○ 地　理

- 郊外には水田が広がる穀倉地帯
- 阿武隈川（繰り返す水害）
- 猪苗代湖（市の水源）

○ 気　候

2025年

・年間平均気温	13.6℃
・年間降水量	787.5mm



郊外から望む中心市街地



阿武隈川の治水

Ⅰ-4　データで見る郡山市①

① 人口ピラミッドは、つぼ型の状態（高齢化、少子化が進行中）

② 人口は、自然動態が減少、社会動態が微減、全体で減少傾向

③ 2020年の産業別人口割合は、
第一次産業2.8%、第二次産業23.7%、第三次産業69.3%

④ 農業産出額は、2024年で約259.7億円

⑤ 商品販売額は、2021年で約1兆4,013億円
（近隣市町村を含む商業圏の中心）

⑥ 製造品出荷額は、2024年で約7,082億円

郡山市は、商工業都市として発展していますが、全国の地方都市と同様に高齢化、少子化が進み、今後も人口が減少する見込みです。

①　郡山市の保育所、学校の数　2026年

保育所　60　　幼稚園　27　　小学校　50
中学校　27　　義務教育学校　2　　高　校　13
大学等　19

②　郡山市の病院、診療所の数　2026年

病　院　22　　一般診療所　246　　歯科診療所　157

他市との比較

◆病床数・医療数
（人口10万人あたり）

都市名	病床数（床）	医師数（人）	歯科医師数（人）
郡山市	**1,754.6**	**267.3**	**134.0**
いわき市	1,454.7	202.8	74.5
秋田市	1,853.0	436.5	78.9
明石市	1,239.4	270.3	76.2

（資料：2026年1月作成 中核市都市要覧）

表1

病床数、医師数、歯科医師数は、同規模の都市と比べて同等数またはそれ以上です。

●種類別道路の路線数・実延長　　2026年4月1日現在

表2

道路種別	路線数（路線）	実延長（km）
市　道	9,093	3,358.8
県　道	41	324.6
国道	4	96.3
高速道路	2	42.4
合　計	9,140	3,822.1

道路実延長
合　計
約3，822km

郡山市には、広い範囲に集落が分散し、道路延長距離が長いという特徴があります。

Ⅱ 郡山市のけがや事故

第６回「けがや事故に関する地域診断」より
（2024年度実施）

Ⅱ－1　病気以外の外因による死亡者数　　郡山市

10歳～79歳は「自殺」、高齢者は「窒息」「転倒・転落」、が第１位

表３

年齢層	１位	２位	３位	４位	５位
10-19歳	自殺 18人	交通事故 5人			
20-29歳	自殺 53人	交通事故 7人			
30-39歳	自殺 73人	交通事故 4人			
40-49歳	自殺 92人	交通事故 16人	転倒・転落 4人		
50-59歳	自殺 91人	交通事故 17人	転倒・転落 9人 窒息 9人	煙・火・火災 7人	
60-69歳	自殺 69人	交通事故 20人	窒息 19人	転倒・転落 17人 溺死・溺水 17人	煙・火・火災 9人
70-79歳	自殺 64人	窒息 36人	転倒・転落 30人 溺死・溺水 30人	交通事故 22人	煙・火・火災 8人
80-89歳	窒息 101人	転倒・転落 76人	溺死・溺水 57人	自殺 45人	交通事故 17人
90歳以上	転倒・転落 58人 窒息 58人	溺死・溺水 11人	自殺 7人	煙・火・火災 4人	
全年齢	自殺 512人	窒息 231人	転倒・転落 197人	溺死・溺水 127人	交通事故 110人

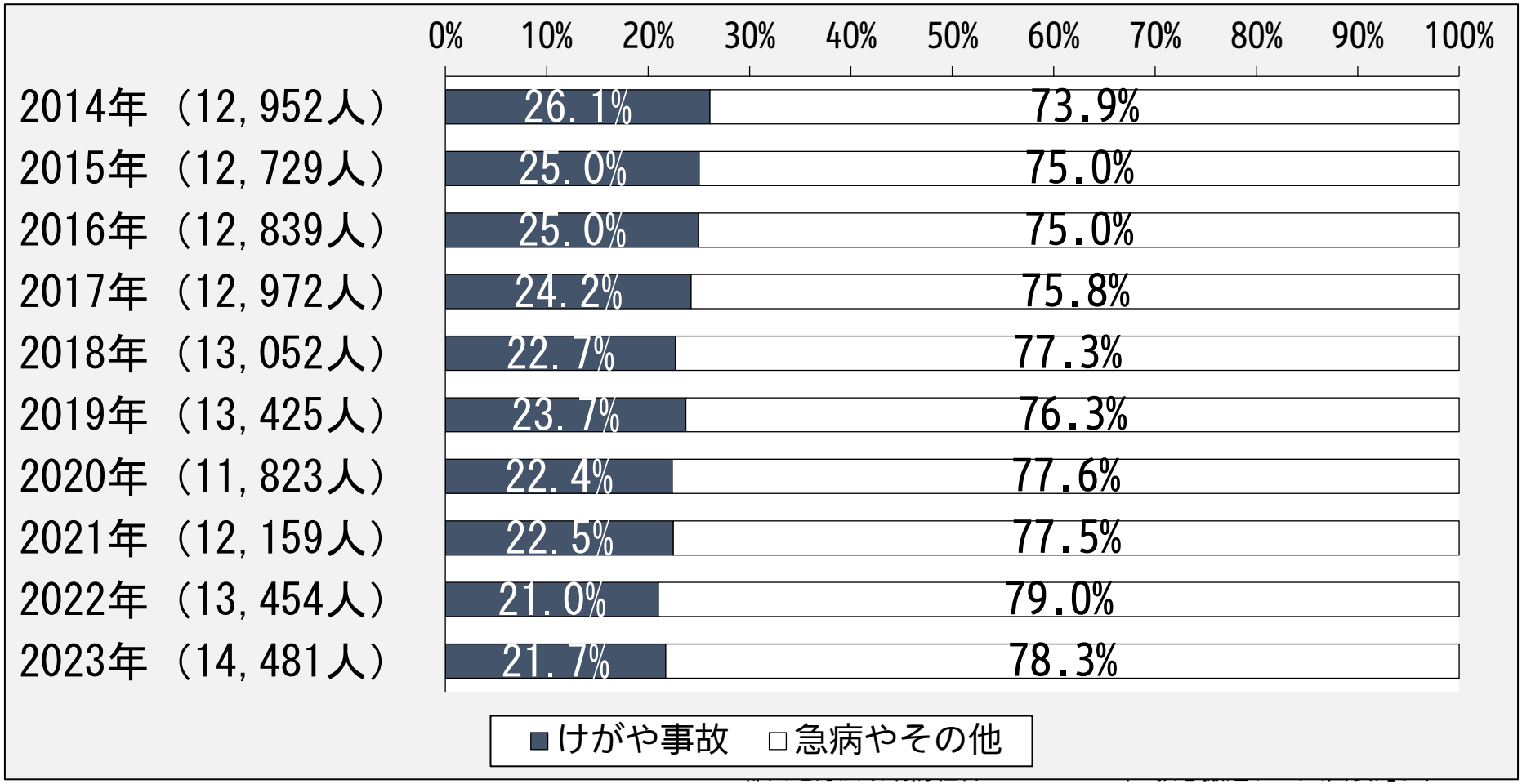
※2014から2022年の死者数を合計しています。

人口動態統計2014～2022年（死因帳票）より作成

Ⅱ-2　救急搬送からわかるけがの状況①　　郡山市

郡山市の救急搬送におけるけがや事故の割合の推移

図1

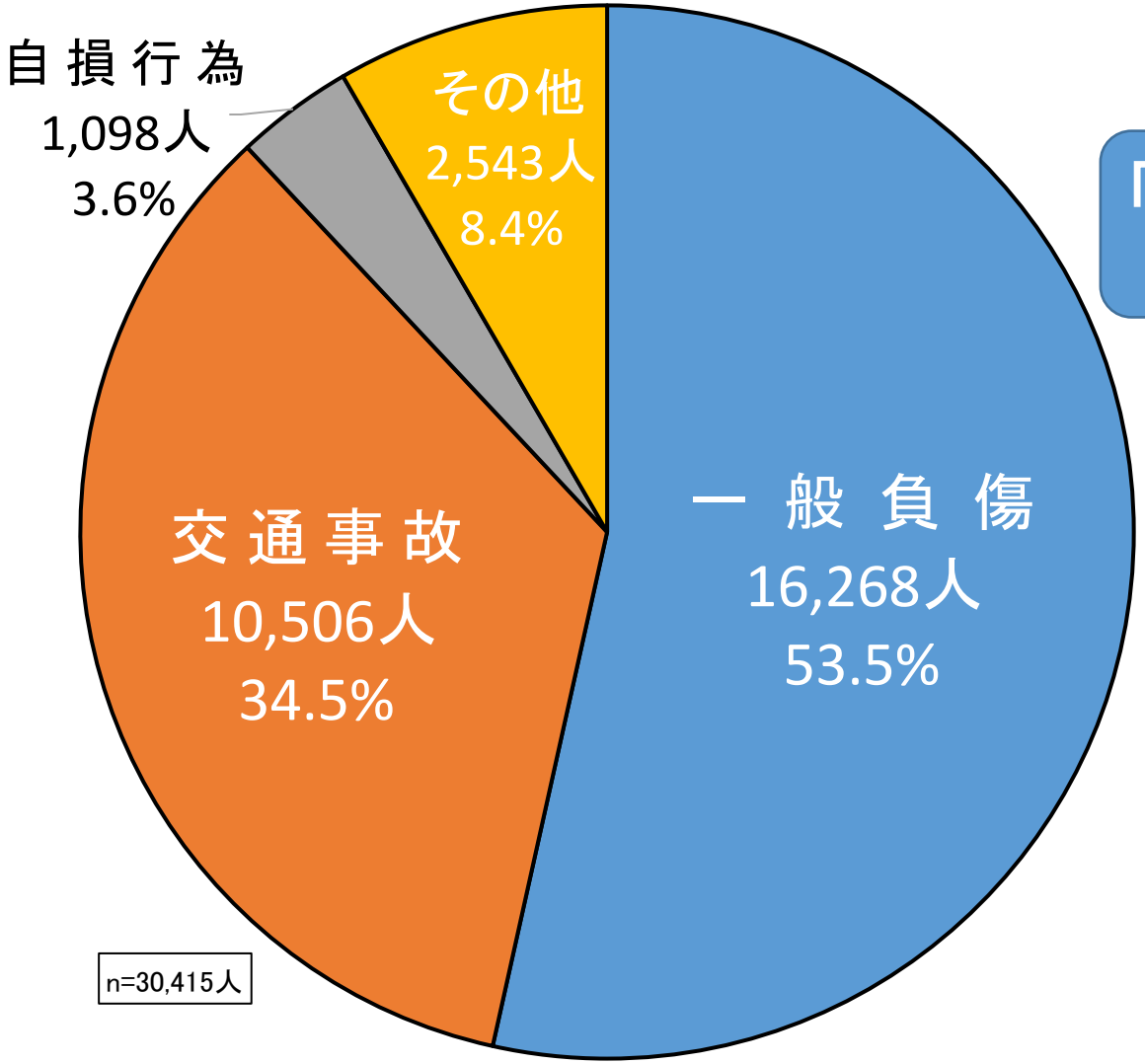


救急搬送におけるけがや事故の割合は、救急搬送全体の約２２～２３％を占める状況が続いています。

郡山市の救急搬送者数　理由別人数及び構成比

※2014から2023年の累計

図2



「一般負傷」と「交通事故」の合計は、88%

※一般負傷とは
交通事故や自損行為、加害による負傷等の他の分類に該当しない負傷が一般負傷となります。
具体的には、転倒や転落等です。

郡山地方広域消防組合　2014～2023年　救急搬送データ（国表）より

Ⅱ－2　救急搬送からわかるけがの状況③　　郡山市

郡山市のけがや事故による救急搬送要因の年代別順位
※2014から2023年の累計

表4

順位	新生児～乳幼児（0～6歳）1，377人	少年（7～17歳）2，520人	就労世代（18～64歳）12，689人	高齢者（65歳以上）13，829人
1	一般負傷 1，084人	交通事故 1，218人	交通事故 6，600人	一般負傷 10，941人
2	交通事故 281人	運動競技 624人	一般負傷 3，641人	交通事故 2，407人
3	加害 8人	一般負傷 602人	自損行為 877人	自損行為 168人

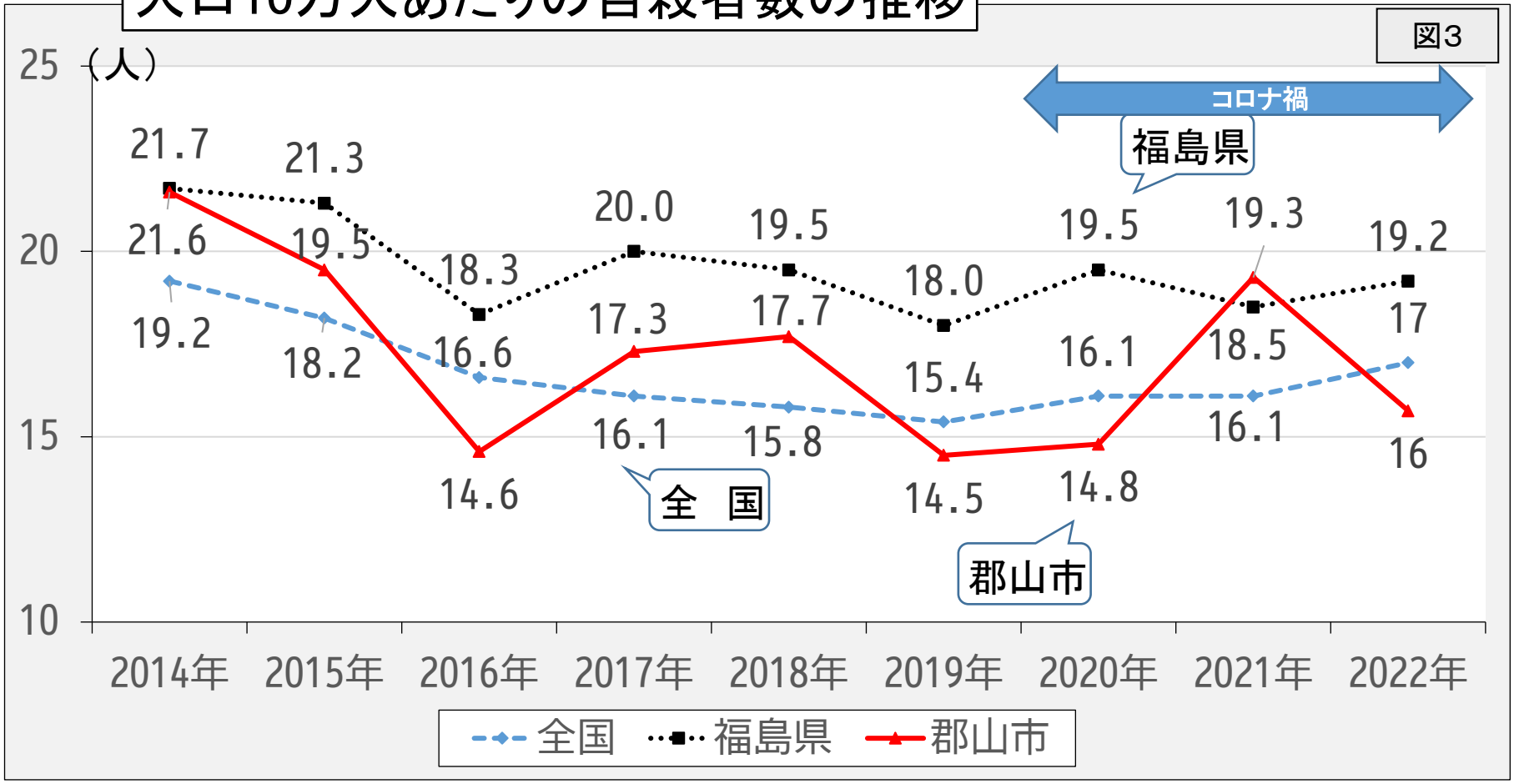
郡山地方広域消防組合　2014～2023年　救急搬送データ（国表）より

「乳幼児」と「高齢者」の年代で「一般負傷」が多く、
「少年」と「就労世代」の年代では「交通事故」が多い。

Ⅱ－3　自殺者数の推移

郡山市

人口10万人あたりの自殺者数の推移



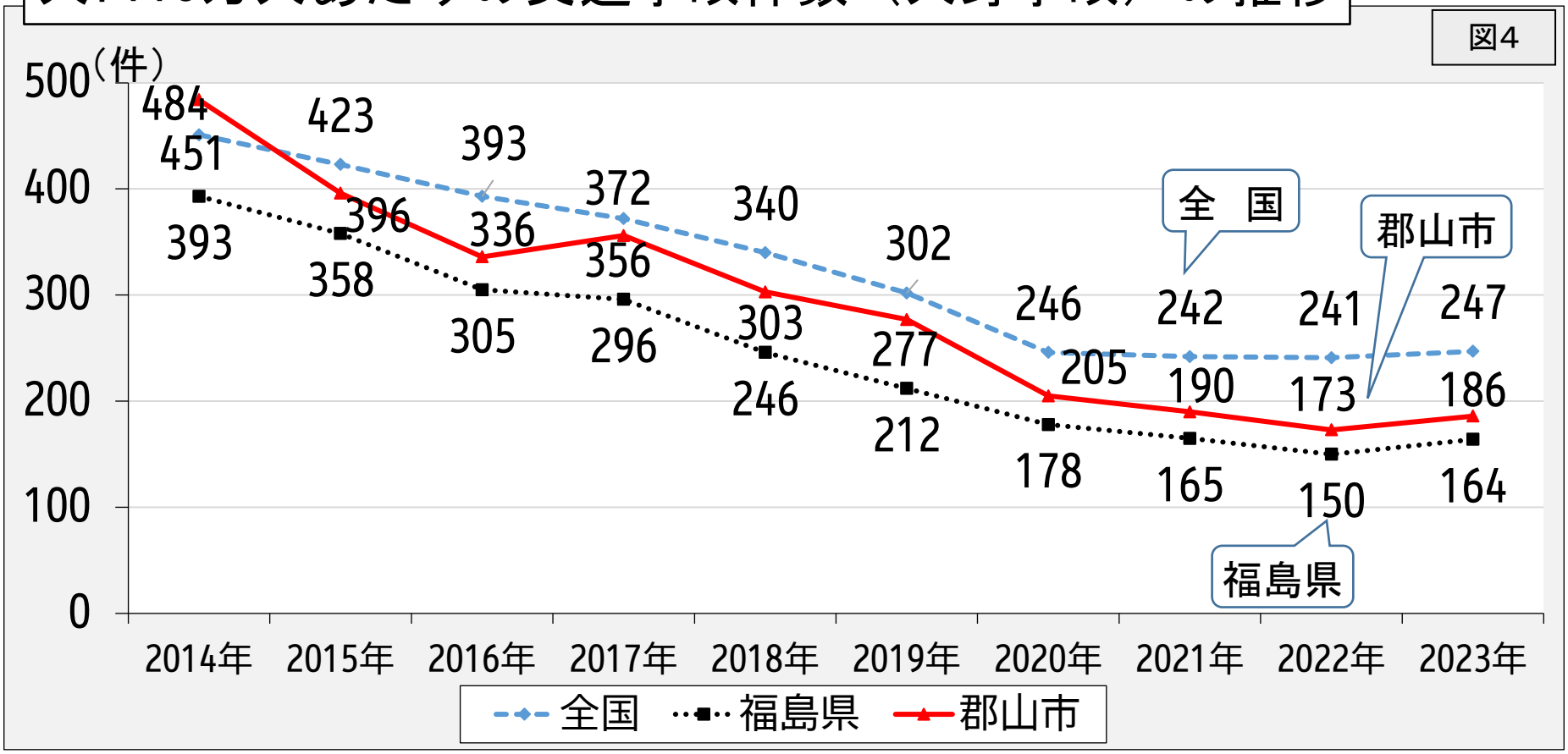
「2014～2022年　人口動態統計」より作成

2014年以降は、減少傾向にありますが、2021年は全国、福島県を上回ったが、2022年は再び減少傾向にあります。

Ⅱ－4　交通事故の発生状況①　郡山市

人口10万人あたりの交通事故件数（人身事故）の推移

図4

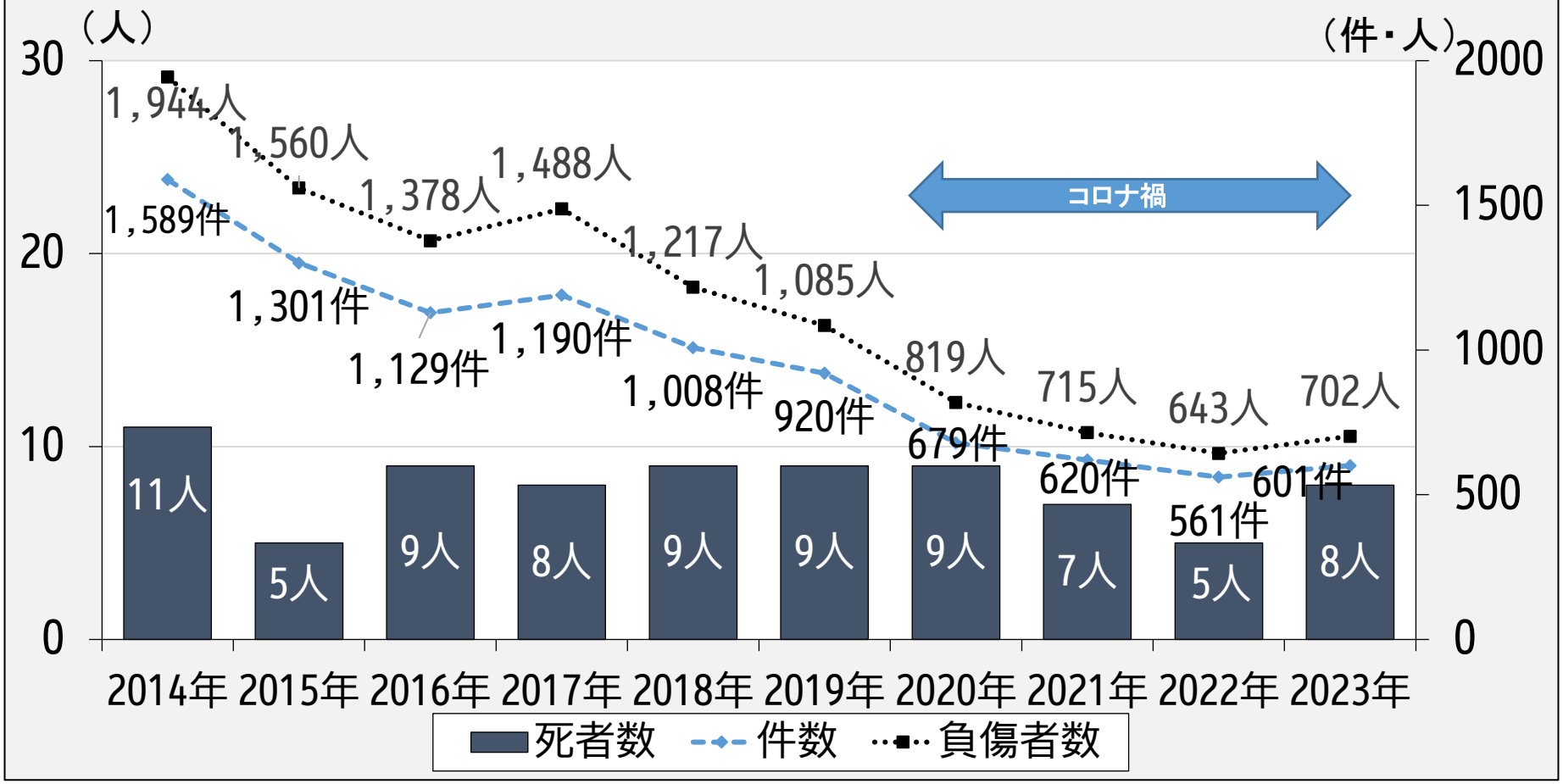


警察庁「警察白書」、福島県警察本部「交通白書」「交通事故のあらまし」より

郡山市は、2014年までは全国及び福島県よりも多い状況でしたが、2015年に全国を下回り、減少傾向が続いています。

郡山市の交通事故（人身事故）発生状況の推移

図5

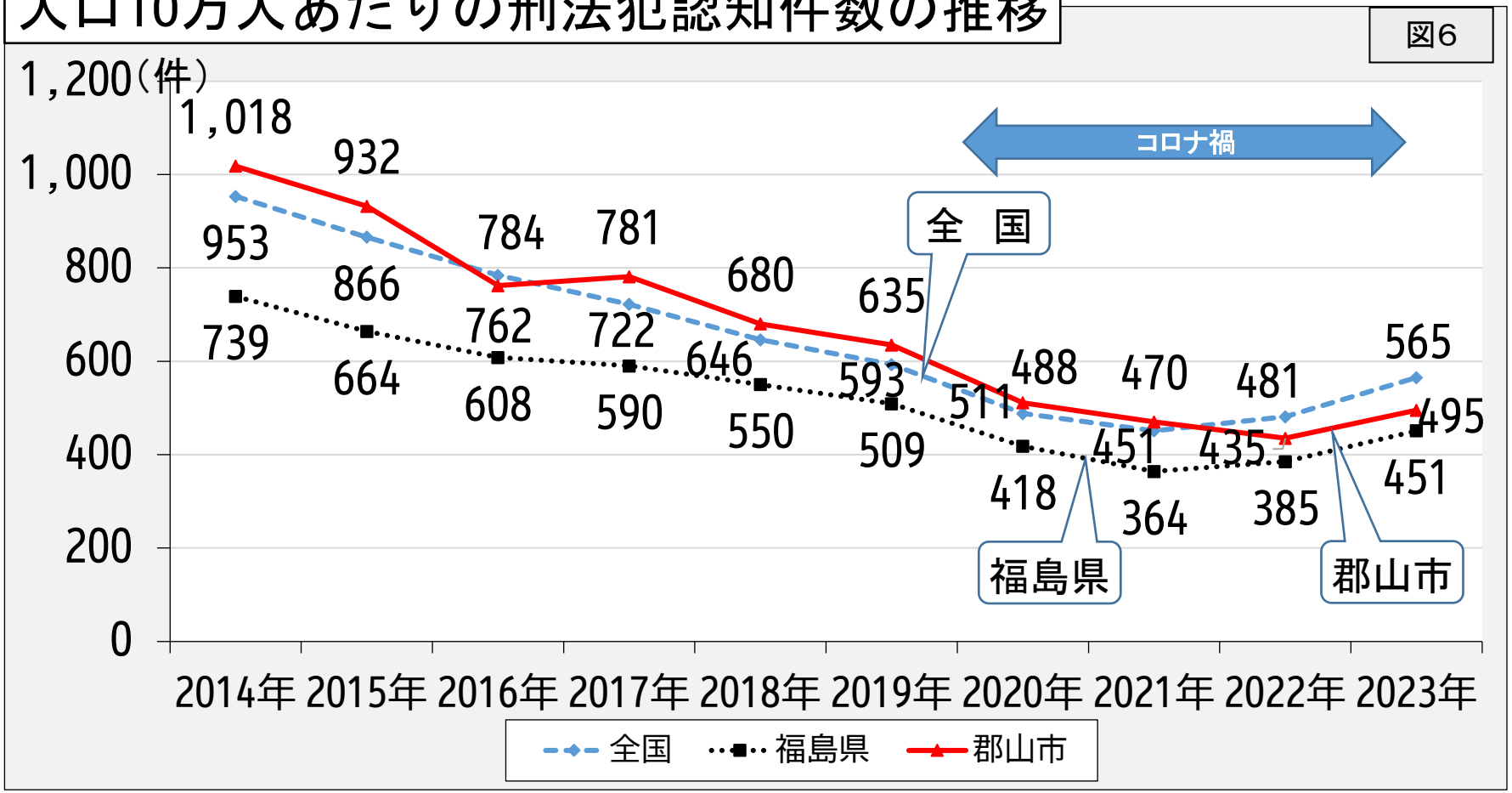


福島県警察本部「交通白書」「交通事故のあらまし」より

郡山市の交通事故は、減少傾向にあり、2014年の1,589件から2023年には601件となり、この９年間で約62%減少しています。

人口10万人あたりの刑法犯認知件数の推移

図6

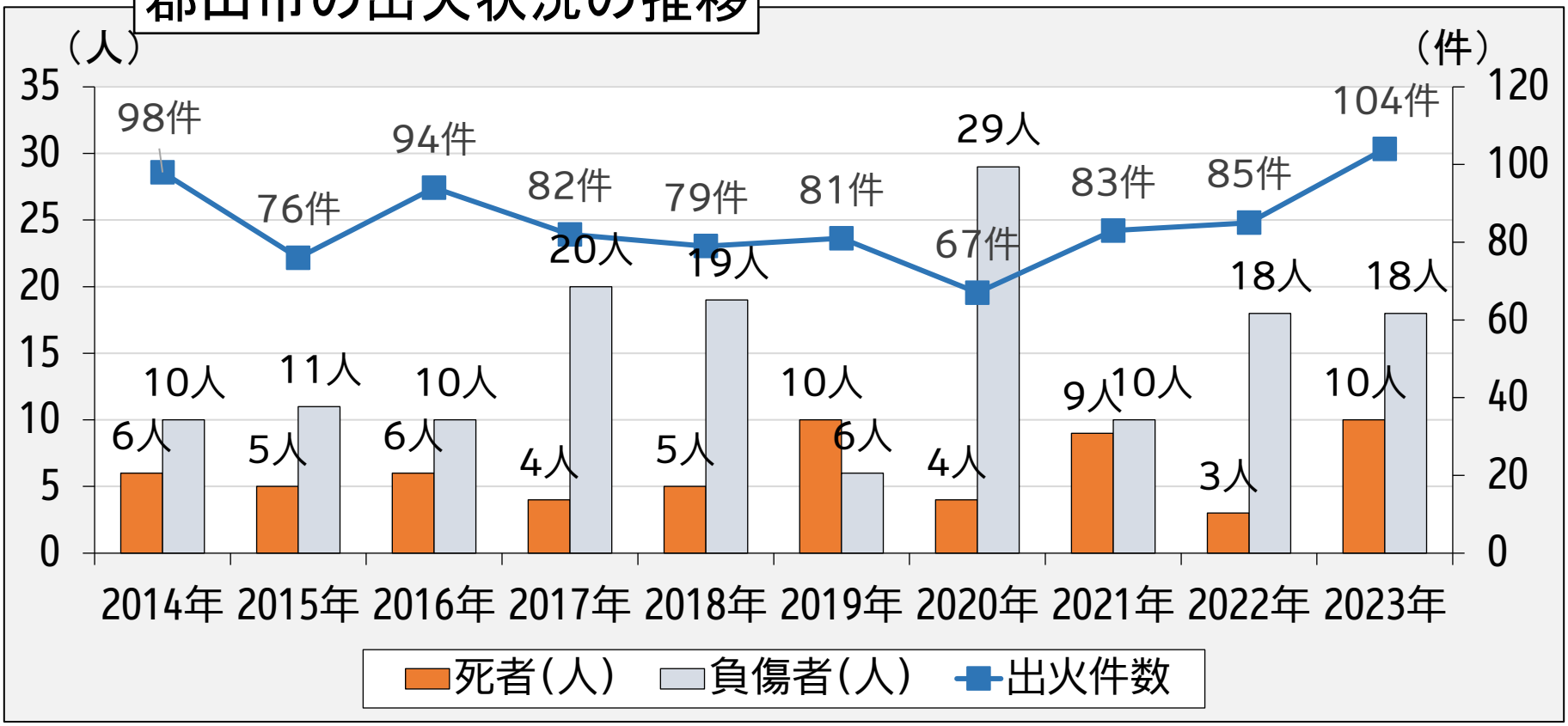


警察庁「 警察白書」、郡山警察署・郡山北警察署「地域安全白書」より

郡山市の犯罪発生率は、全国とほぼ同様の傾向で減少していますが、福島県よりも多い状態が続いています。

図7

郡山市の出火状況の推移



郡山地方広域消防組合「2015～2024年（2014～2023年版）　消防年報こおりやま」より

郡山市では、毎年80件前後の火災が発生していたが、2021年以降は増加傾向にあります。

火災による死傷者数は、2021年以降、出火件数の増加に伴い、年々多くなってきています。

Ⅲ 過去の大災害

・東日本大震災

・東京電力福島第一原子力発電所の事故

・原子力災害からの回復

被害状況

●発生日時　2011年3月11日（金）14時46分
●震源　三陸沖深さ24km
●地震の規模　マグニチュード9.0
●郡山市の震度　震度６弱（最大震度７：宮城県栗原市）
●人的被害　死者１名
●建物や施設等の被害

表5

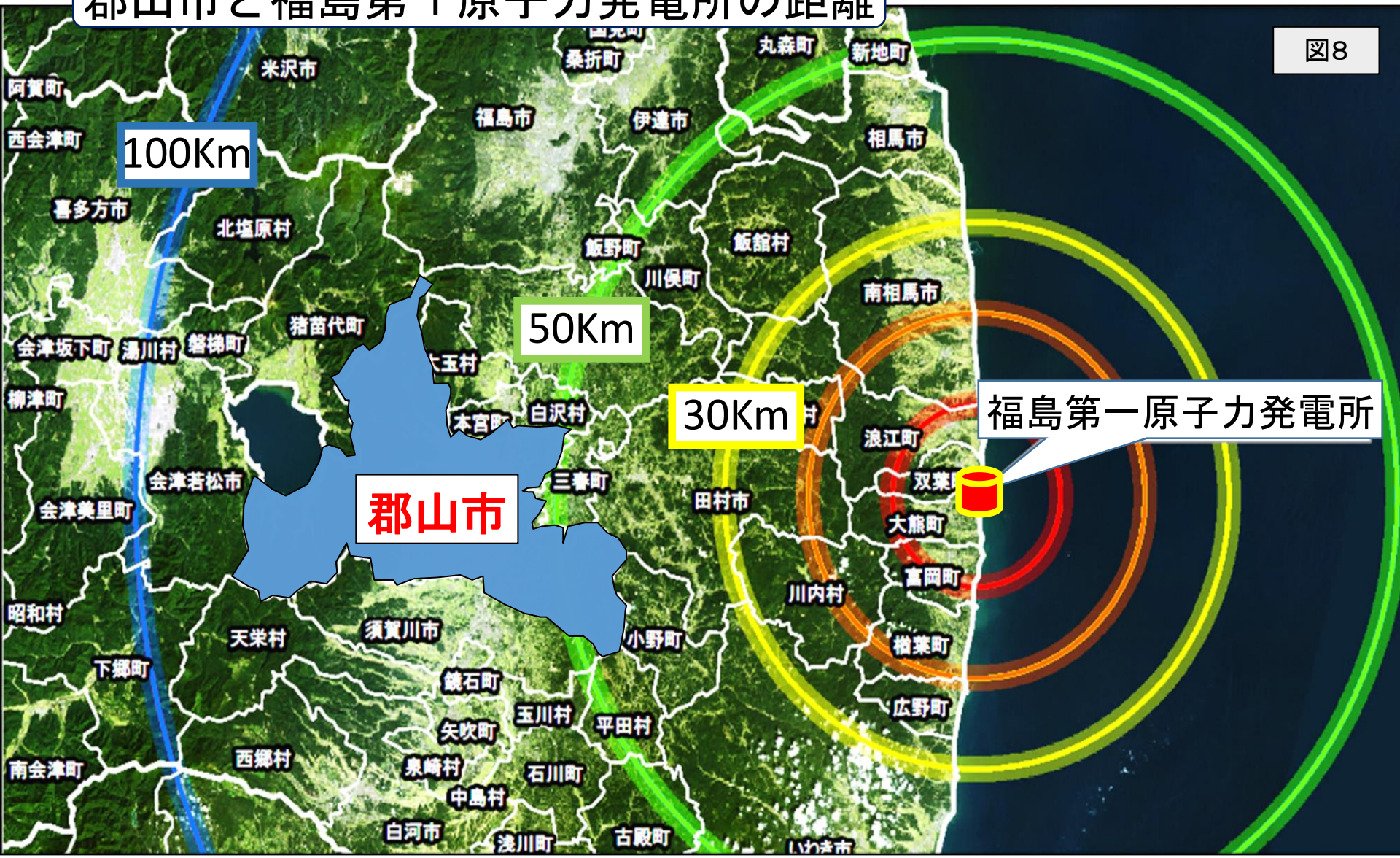
	全壊	半壊	一部損壊	計
住宅	2,438	21,368	34,111	57,917
店舗等	327	1,103	4,751	6,181
計	2,765	22,471	38,862	64,098

道路・橋りょう等　2,565箇所
河川護岸の崩壊・亀裂等　40箇所
水道施設：管路及び施設等破損　1,060箇所
震災直後断水戸数　約37,000戸
下水道等施設：被災管路延長　5,753m　マンホール等破損　779箇所

東日本大震災は、郡山市にとっては、気象庁が観測を開始以来、初めての大規模な地震災害であり、甚大な被害をもたらしました。

Ⅲ-2　東京電力福島第一原子力発電所の事故①　郡山市

郡山市と福島第１原子力発電所の距離



Ⅲ-2　東京電力福島第一原子力発電所の事故②　郡山市

○原発事故による市民生活への影響　※主なもの

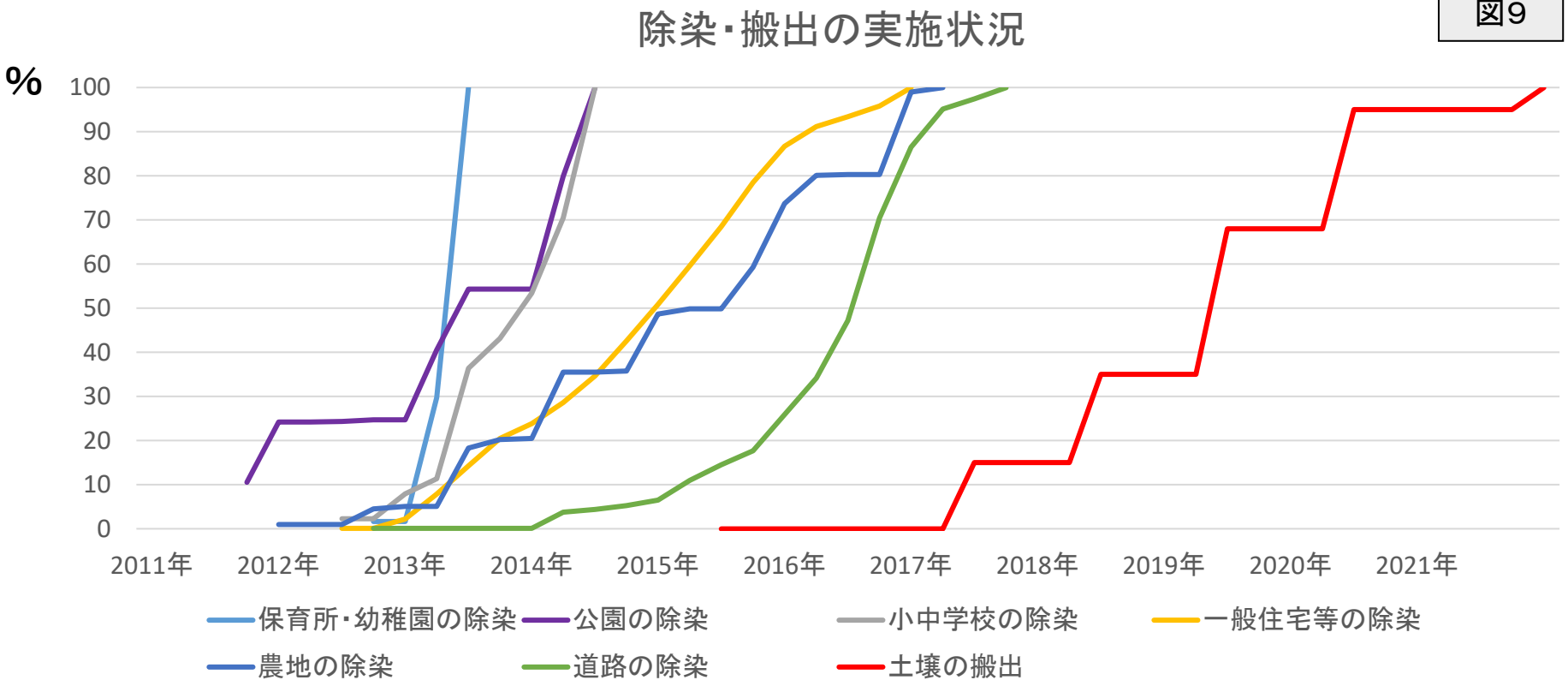
- 事故前の数値と比較して数十倍の放射線量となった。
- 放射線によって健康被害が発生する値について、科学的な定説がなく、住民は大変な不安を抱いた。
- 輸送の中断により、ガソリン等の日常生活物資が欠乏した。
- 子どもたちの屋外活動が制限された。
- 自主的に子どもたちを避難させたことによる家族の分離

これまでに放射線による健康被害は発生していません。

放射性物質という見えない敵と戦いながらの復興においては、国内や世界中の皆さまからの多くのご支援が、私たちを勇気づけました。

○除染と除去土壌の搬出

図9

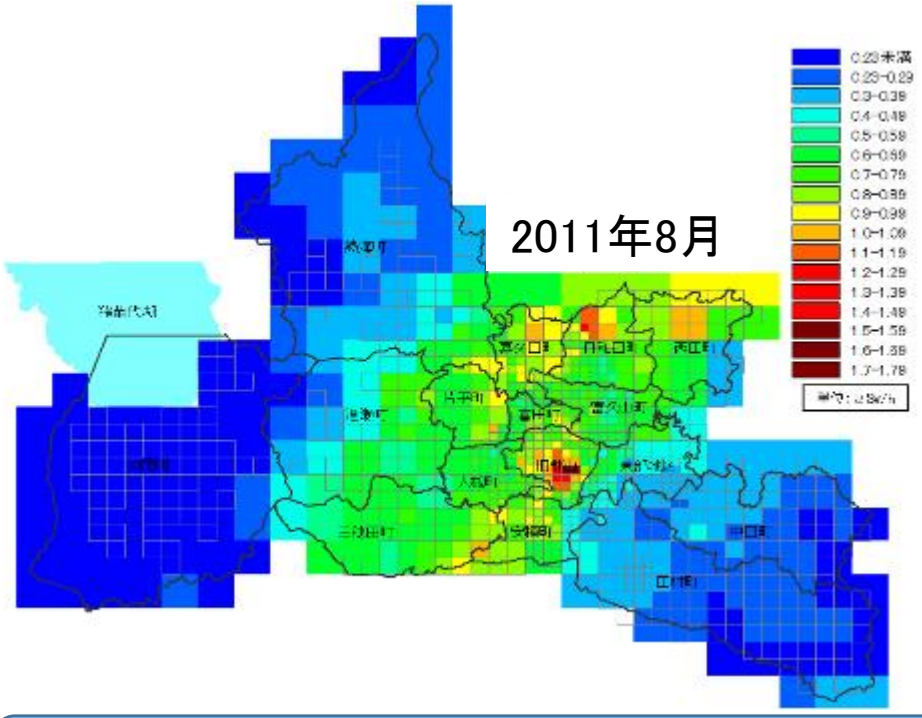


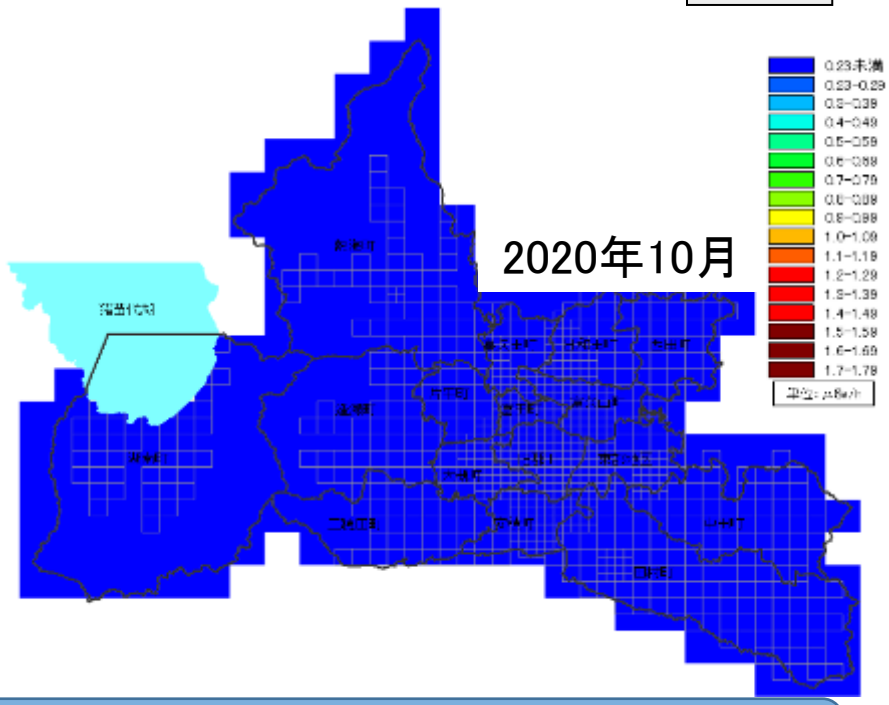
放射性物質で汚染された表土を取り除く除染は、2018年3月までに完了しました。

除染により発生した除去土壌の中間貯蔵施設への輸送は、2022年3月までに完了しました。

○郡山市内の空間放射線量の推移

図10





郡山市の空間放射線量は、雨や風等によるウェザリング効果、放射性物質の半減期等による物理的減衰、これまで実施した除染等により、事故直後に比べ大きく低減し、現在の平均値は、0.1μSv/h程度で安定しています。

	2014年	2016年	2018年	2020年	2022年	2024年
原子力災害の不安	65.1%	34.8%	30.1%	18.1%	15.7%	17.5%

Ⅳ セーフコミュニティ活動

郡山市の大きな課題

① 東日本大震災からの復興、風評被害の払拭

② 全国や福島県より多い交通事故、犯罪、自殺等

③ 超高齢社会への対応

日本国内のセーフコミュニティ推進自治体の活動に着目し、セーフコミュニティ活動は、震災からの復興に全力を挙げている私たちにも必要な手法であると判断しました。

2014年11月4日　セーフコミュニティ活動に取り組むことを
品川 萬里　郡山市長が宣言

2018年2月2日　セーフコミュニティ国際認証取得
2023年2月4日　セーフコミュニティ国際認証再取得

6つの指標

指標1. 自治体の行政体制と連動・融合した、分野横断的な組織が持続的な取組みを進めている

指標2. 問題把握、リスクの評価、予防対策立案のために外傷及びその原因に関するデータを収集・分析し、その結果を周知している

指標3. 全ての性別・年齢・環境を対象とした取組みを進めている

指標4. 弱者やハイリスク集団及び環境を対象とした取組みを進めている

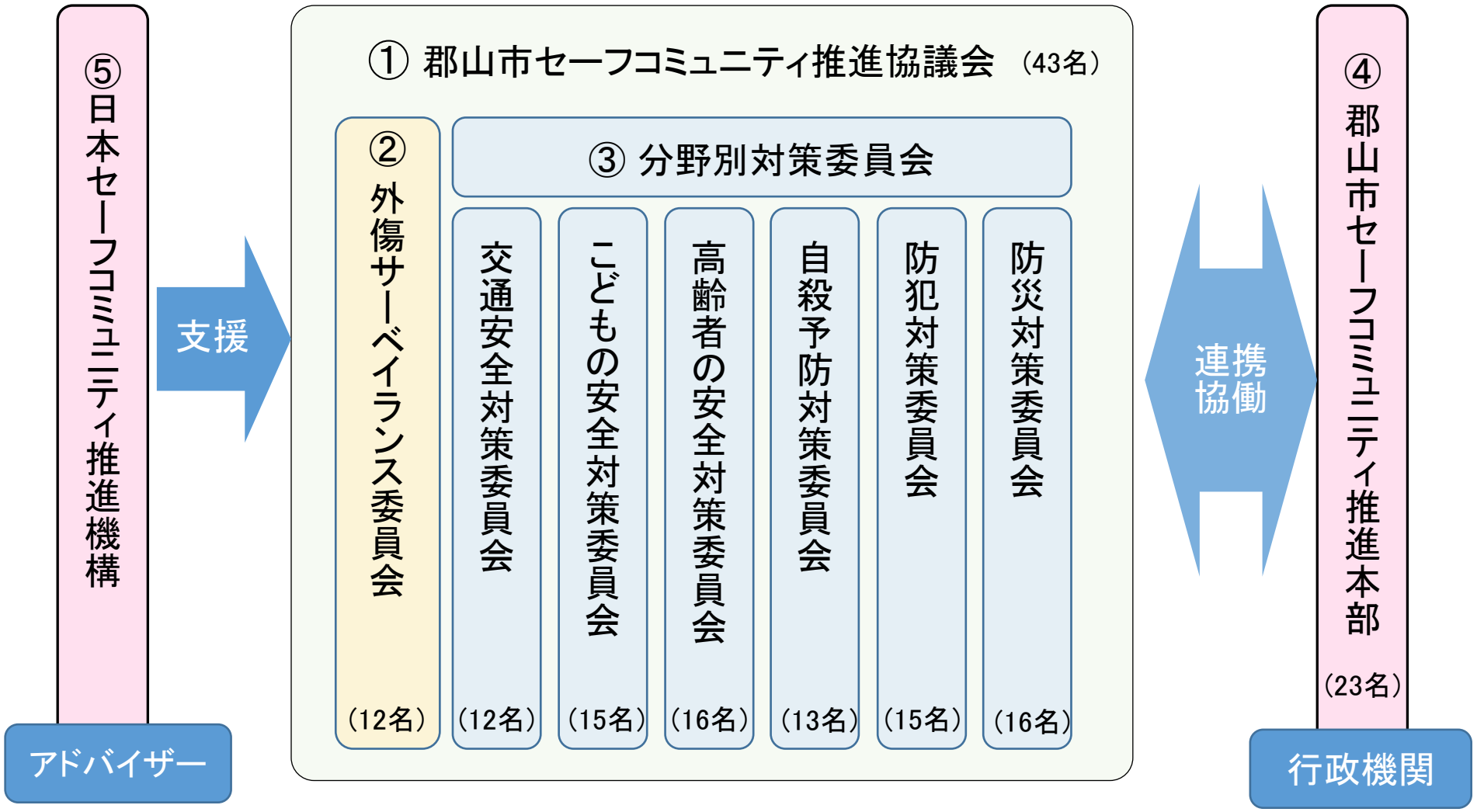
指標5. 取組みの経過と効果の測定及び継続的なプログラムとプロジェクトの改善を実施している

指標6. 国内外のセーフコミュニティネットワークに継続的に参画している

Ⅳ-2　現在のセーフコミュニティ推進体制　　郡山市

指標１　行政体制と連動・融合した、分野横断的な組織との取組

図11



Ⅳ-3-① 郡山市セーフコミュニティ推進協議会　郡山市

（分野の垣根を越えた全市的なＳＣ推進母体）

設立日　２０１５／５／２６
会員数　４３団体、機関（代表者）会長は市長
構　成　市民活動団体、住民自治組織、教育団体、事業組合、行政、警察等
役　割　方針決定、活動の推進、啓発など

図12





Ⅳ-3-② 外傷サーベイランス委員会

郡山市

（データ収集、分析、検証を行う専門部会）

設置日　２０１５/５/２６
委員数　１２人
構　成　医師、大学教授（工学部）、保健所、警察、消防、労働等
役　割　けがや事故に関するデータ等の収集、分析、提供
　　セーフコミュニティ活動の検証　など



対策の根拠となるデータの検討等

Ⅳ-3- ③ 分野別の対策委員会

郡山市

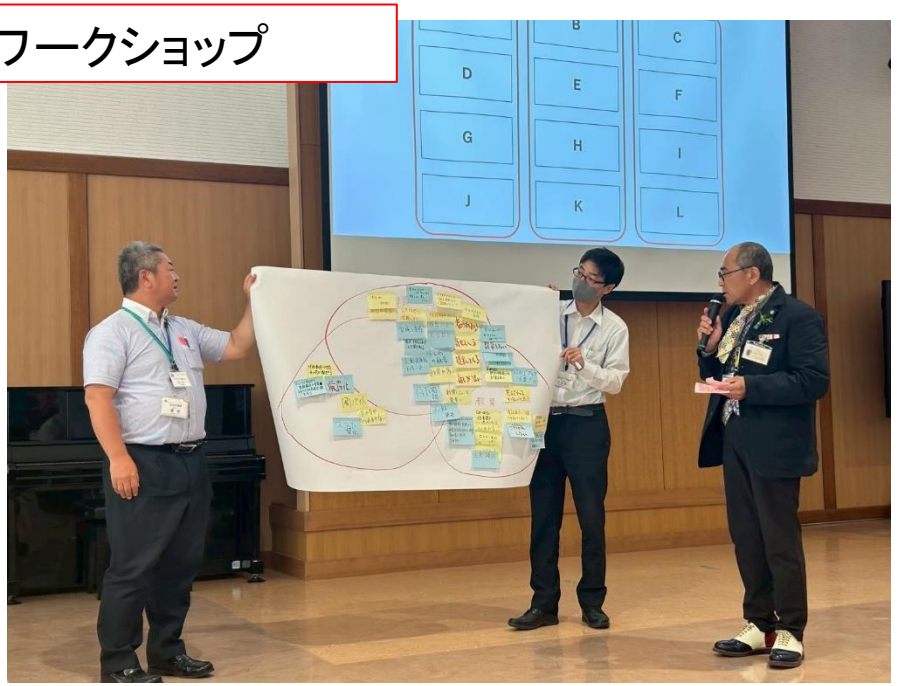
（各分野の課題解決を図る専門部会）

設置日　２０１５／７／８

A 交通安全対策委員会	12人	D 自殺予防対策委員会	13人
B こどもの安全対策委員会	15人	E 防犯対策委員会	15人
C 高齢者の安全対策委員会	16人	F 防災対策委員会	16人

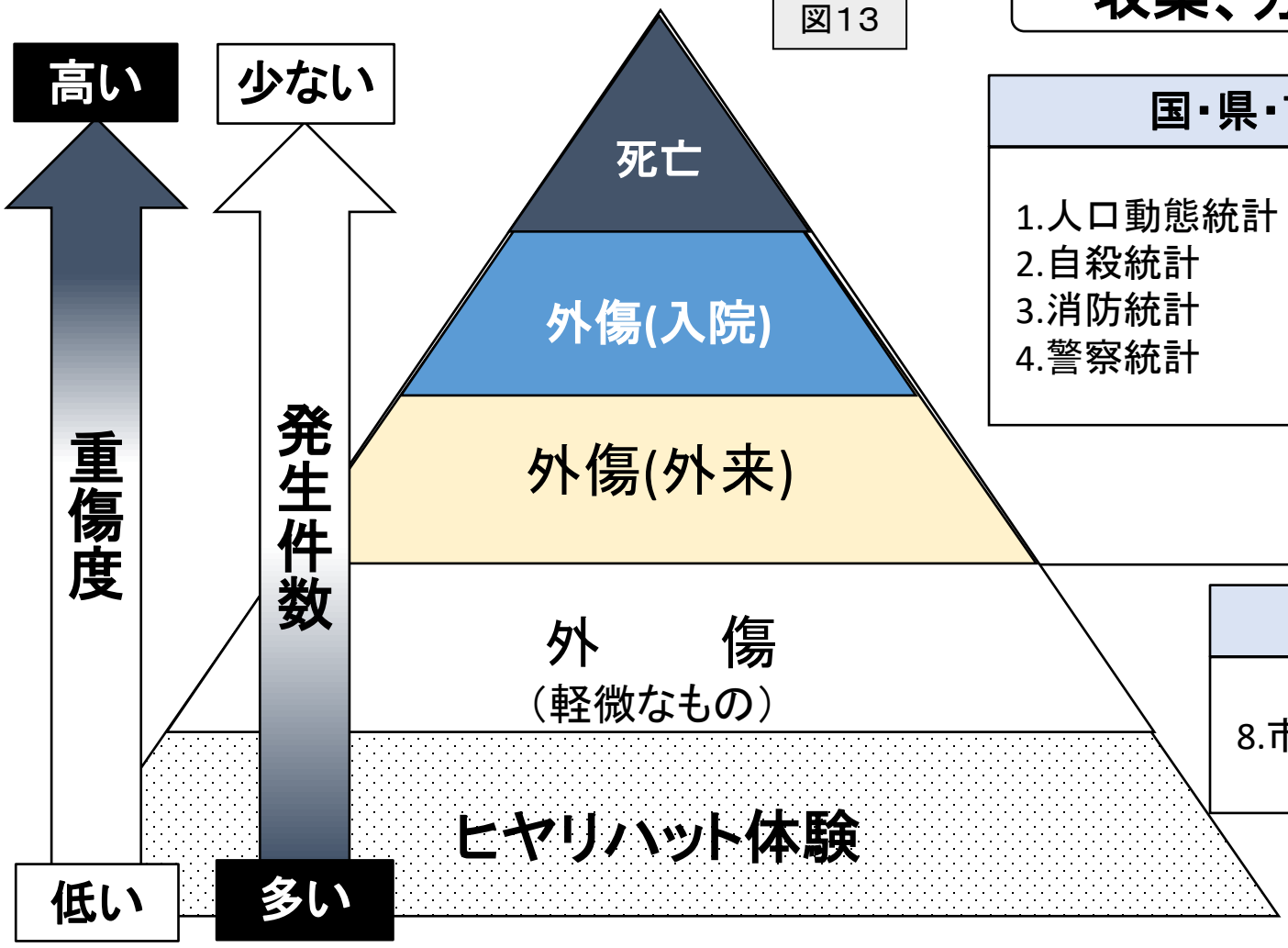
対策委員会合同ワークショップ





指標2　外傷及びその原因に関するデータを収集・分析する仕組

図13



収集、分析するデータ

国・県・市の統計データ

1.人口動態統計
2.自殺統計
3.消防統計
4.警察統計
5.交通白書
6.地域安全白書
7.救急搬送データ
等

アンケート調査

8.市民意識調査（アンケート）

指標3　全ての性別・年齢・環境を対象とする取組

表6

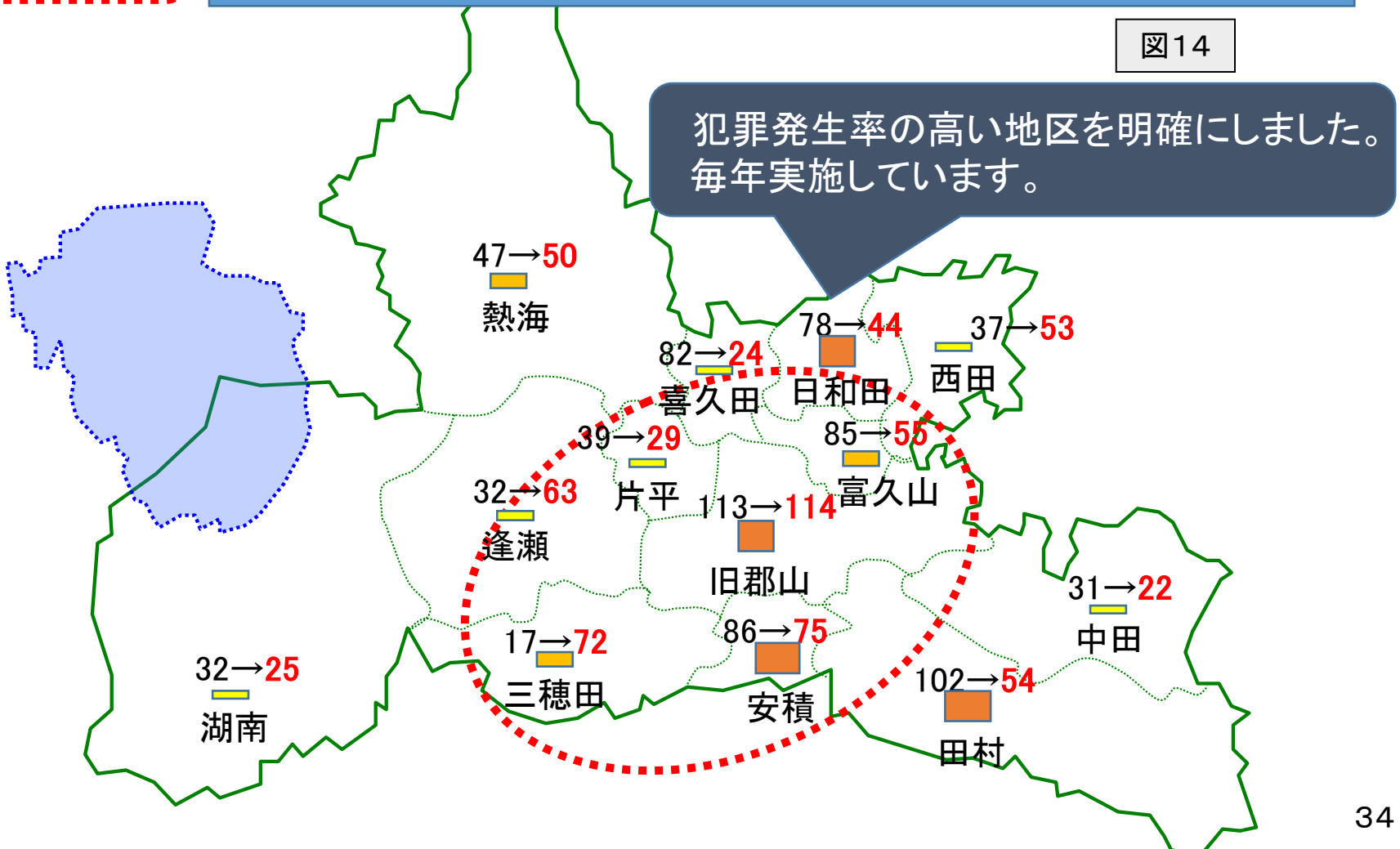
分野	こども（0～14歳）	青年（15～24歳）	成人（25～64歳）	高齢者（65歳～）
家庭	育児講座 育児支援家庭訪問	地域防災訓練	生活習慣改善指導	介護予防体操
学校	避難訓練　通学路見回り点検		救命救急講習	
職場	育児休暇等の支援	労働相談　メンタルヘルス対策　避難訓練　救命救急講習		
交通	街頭指導 交通安全教室	運転免許更新時講習　交通違反の取り締まり、指導 交通安全教室　ラジオ等での安全運転呼びかけ		
公共	法令の改正、道路環境整備、維持管理　交通規制　信号機設置 バリアフリー化（段差解消）　建物の耐震化　AEDの設置及び講習会の開催			
自殺	こころの健康相談 引きこもり支援	ゲートキーパー養成講座　こころの健康相談		
暴力・虐待	関係機関の連携と情報共有　電話、窓口相談			
犯罪	犯罪者の検挙　防犯パトロール　防犯設備の普及啓発			

指標4　弱者やハイリスク集団及び環境を対象とした取組

活動の例

郡山市の人口1万人あたりの刑法犯認知件数
2015年　→　2025年　13地区別の比較

図14

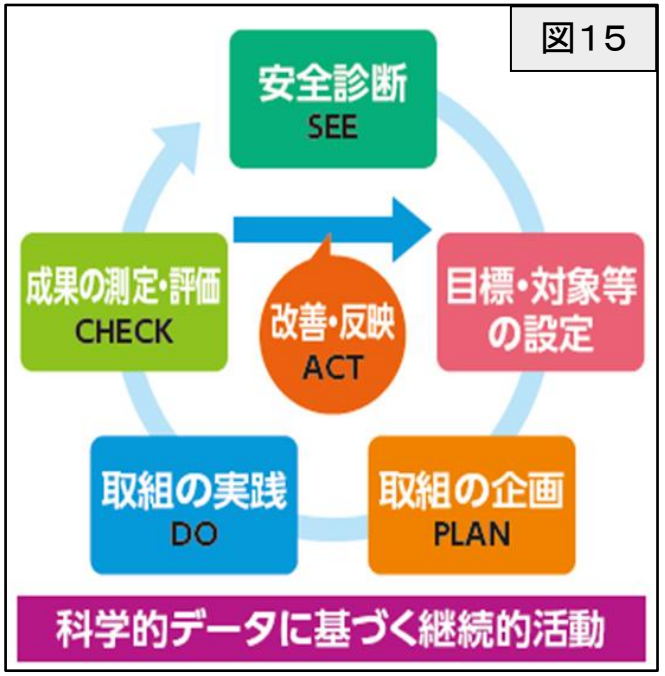


指標5　取組の経過と効果の測定、継続的な改善への仕組

各分野の対策委員会の取組については、PDCAサイクルによる活動の成果測定と評価、改善と反映を行っています。

取組の効果を測定するため、短期・中期・長期の指標を設定し、評価を行っています。

図15



活動の成果測定、評価指標の例（交通安全対策委員会）

表7

重点課題	取組	活動指標	成果指標		
			短期	中期	長期
高校生の自転車事故が多い	交通事故多発地点マップやチラシの配布と街頭啓発活動	配布枚数 活動回数	高校生の事故多発地点の認知度 高校生の自転車事故の危険性の認知度	高校生の交通安全意識の変化	高校生の自転車事故件数

Ⅳ-8　セーフコミュニティネットワークへの参加①　郡山市

指標6　国内外のセーフコミュニティネットワークへの継続的参加

2018年
・現地審査（横浜市栄区、亀岡市、久留米市、松原市）
・事前指導（十和田市）
・認証式典（横浜市栄区、亀岡市、久留米市、松原市）
・第9回アジア地域セーフコミュニティ会議厚木大会

2019年
・現地審査（さいたま市、十和田市）
・事前指導（秩父市、厚木市）
・認証式典（さいたま市）

2020年
・現地審査（オンライン：鹿児島市）
・事前指導（オンライン：都留市）
・セーフコミュニティオンラインセミナー（タイ・ナーン市）



郡山市長講演（第9回アジア会議）

2021年
・現地審査（オンライン：都留市、厚木市、秩父市）
・事前指導（オンライン：豊島区）
・認証式典（オンライン：鹿児島市、都留市、厚木市、秩父市）

2022年
・現地審査（オンライン：豊島区）
・事前指導（オンライン：松原市）
・第25回世界セーフコミュニティ会議、第10回アジア地域セーフコミュニティ会議（オンライン：世宗市）

Ⅳ-8　セーフコミュニティネットワークへの参加②　郡山市

指標6　国内外へのセーフコミュニティネットワークへの継続的参加

2023年
・現地審査（久留米市）
・現地審査（オンライン：松原市、亀岡市）
・認証式典（久留米市、松原市、亀岡市）

2024年
・現地審査（十和田市）
・認証式典（十和田市）

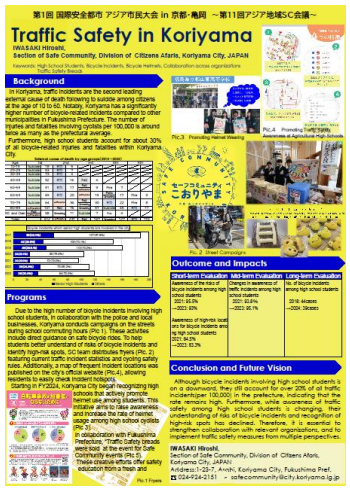
2025年
・事前指導（都留市）
・現地審査（さいたま市）
・認証式典（さいたま市）
・アジア地域セーフコミュニティ会議
（オンライン：亀岡市）

2026年
・現地審査（都留市）



2025年　都留市事前指導





2025年　アジア地域セーフコミュニティ会議

Ⅳ-9　推進自治体への視察研修（2024.1.18　山梨県都留市）郡山市

【経緯】

コロナ禍以降、委員や担当者の変更等により、対策委員会の会議が委員会主導から行政主導の会議になっていたことから、委員会主導で活動を行っている山梨県都留市に視察研修を行った。

【内容】

①各対策委員会との意見交換　　②対策委員会会議の見学（交通安全・防犯）

【成果】

郡山市・・・会議の進め方（ワークショップ）や行政の関わり方等が参考となった。
都留市・・・他市から評価されたことで、委員等のモチベーションが上がった。



（交通安全対策委員会会議の様子）



（防犯対策委員会会議の様子）

Ⅴ 継続的活動の成果

Ⅴ-1　対策委員会で取り組んでいる重点課題の状況　郡山市

※認証時と直近のデータ比較

図16

交通安全

【高校生の自転車事故件数】

2017年	2025年
60件	49件

【交通事故による高齢者の死亡者数】

2017年	2024年
3人	9人

こどもの安全

【少年の交通事故における救急搬送者数】

2017年	2025年
148人	105人

【新生児と乳幼児の一般負傷における救急搬送者数】

2017年	2025年
109人	98人

高齢の安全

【高齢者の一般負傷における転倒割合】

2018年	2025年
63.3%	65.9%

【不慮の窒息による高齢者の死亡者数】

2017年	2024年
27人	23人

Ⅴ-1　対策委員会で取り組んでいる重点課題の状況 郡山市

※認証時と直近のデータ比較

図17

自殺予防

【40代から50代の男性の自殺による死亡者数】

2017年　18人　→　2024年　16人

【女性の自殺による死亡者数】

2017年　22人　→　2024年　15人

防犯

【窃盗犯の認知件数】

2017年　1,897件　→　2025年　1,369件

【配偶者によるDV相談件数】

2017年　227件　→　2025年　277件

防災

【地震への不安】

2018年　63.7%　→　2024年　66.0%

【地域の防災活動に参加したことがある人】

2018年　18.6%　→　2024年　17.2%

Ⅴ-2　活動の工夫：セーフコミュニティの理念や活動の広がり　郡山市

①地区・地域における SC説明会の開催

2018年から2025年までに出前講座等の事業説明会
595回

SC活動参加者延べ人数
186，671人

各地域では、町内会等の連合会など**13団体**がセーフコミュニティの理念に共感し、活動を実施

②SC活動推進事業所との連携

2019年からセーフコミュニティに取り組む企業や団体の活動を郡山市がウェブサイトや広報紙でPR

登録事業所　**68団体**





③セーフコミュニティ賞

2019年から地域の優れたセーフコミュニティ活動を実施している企業や団体を郡山市が表彰

2019年	**18団体**
2020年	**18団体**
2021年	**18団体**
2022年	**12団体**
2023年	**17団体**
2024年	**16団体**
2025年	**13団体**



2026年９月末時点で、市内193団体がセーフコミュニティの理念に共感し、活動を推進中

Ⅴ-3　活動の工夫：多面的な情報発信　　郡山市

「見える化」したデータやパンフレットを市のウェブサイトで周知
市庁舎にセーフコミュニティコーナーを設置し、注意喚起動画放映
市の広報紙や年5回発行の「セーフコミュニティ通信」、SNSを活用



市庁舎正面入り口のセーフコミュニティコーナー



年5回発行セーフコミュニティ通信

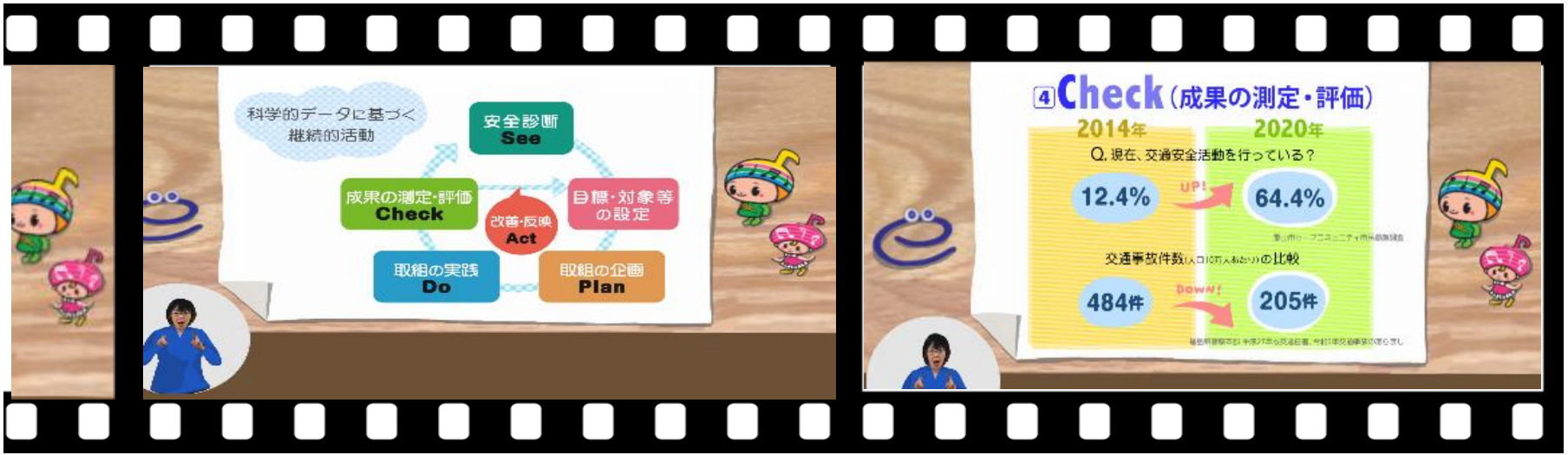


X（旧ツイッター）

Ⅴ-4　活動の工夫：デジタルによる情報発信　　郡山市

動画配信を中心としたデジタル化による普及啓発
具体的な活動方法の説明により、啓発から活動支援にシフト





Ⅴ-5　活動の工夫：市民参加による情報発信　　郡山市

2018年２月２日のセーフコミュニティ国際認証取得を記念し、毎年２月に市民参加のセーフコミュニティフェスタを開催

けがや事故を予防する活動を行った個人・団体等の表彰、活動の報告、ドライブシミュレーター等の体験コーナーを設置し、セーフコミュニティ活動に対する市民の理解を深め、安全安心なまちづくりの推進を図っています。





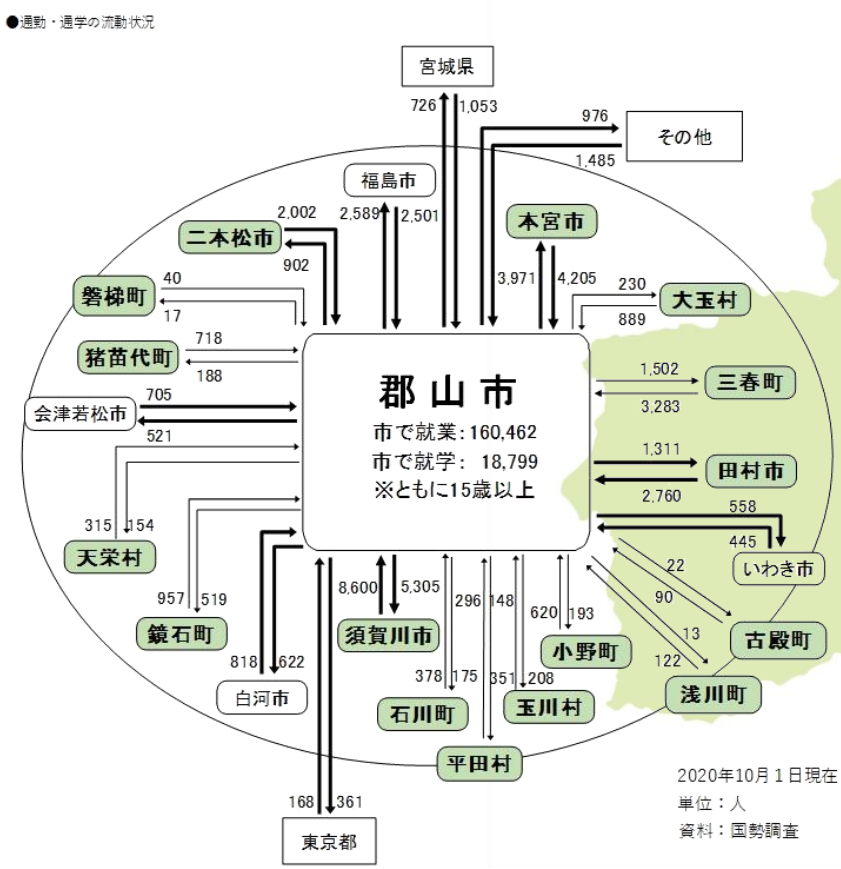
Ⅴ-6　活動の工夫:「こおりやま広域圏」への情報提供　郡山市

国の政策に則り、2019年から郡山市を中心とする17市町村が連携して「こおりやま広域圏」を形成し、広域的に学び、働き、暮らし続けることができる圏域づくりを開始

セーフコミュニティの情報は、広域圏の市町村にも情報提供

「広め合う、高め合う、助け合う」　～持続可能な圏域の創生～

図18

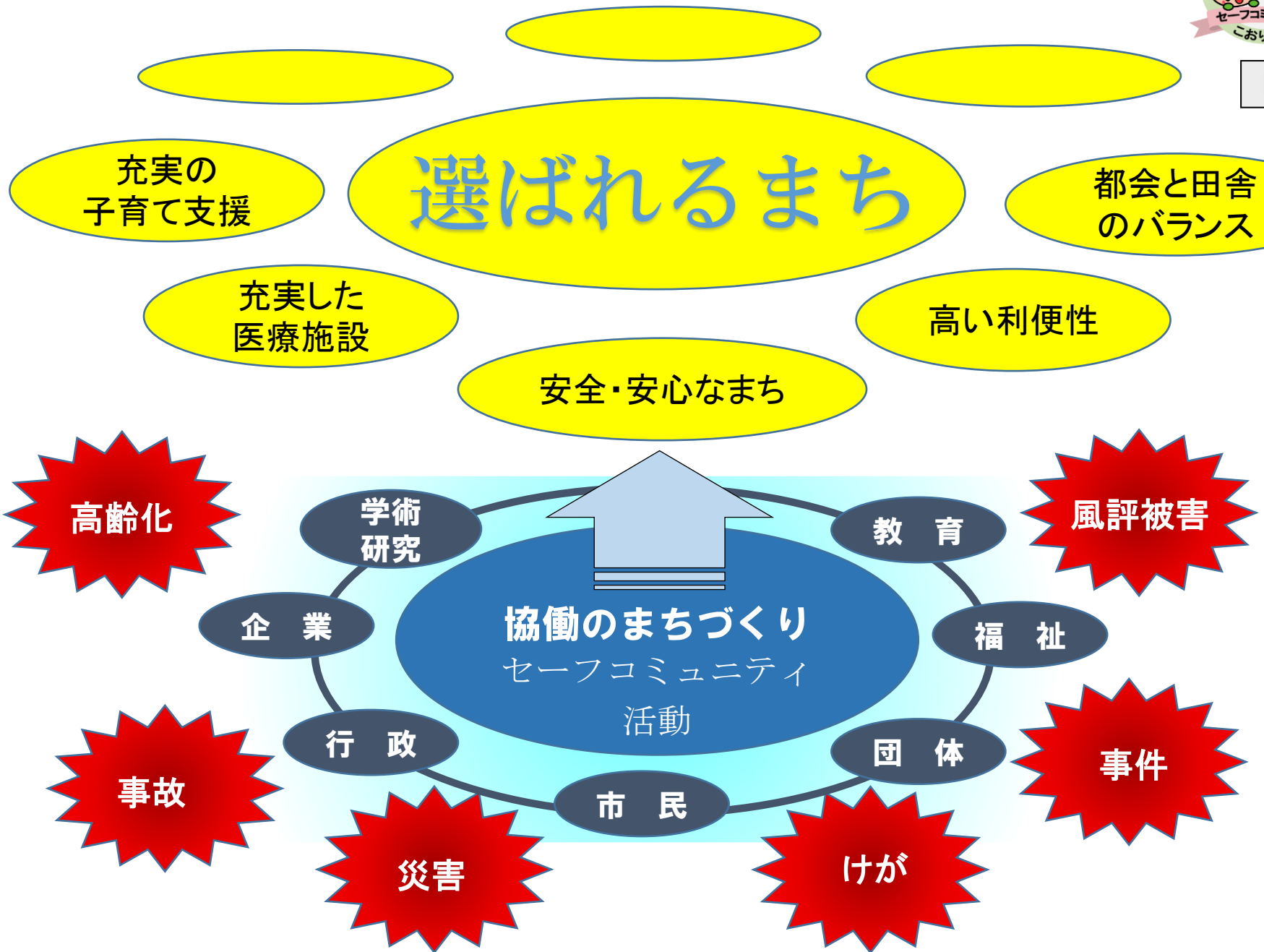




こおりやま広域圏

Ⅵ 今後の展望

図19


選ばれるまち
充実の
子育て支援
都会と田舎
のバランス
充実した
医療施設
高い利便性
安全・安心なまち
高齢化
風評被害
事故
事件
災害
けが
協働のまちづくり
セーフコミュニティ
活動
学術
研究
教　育
企　業
福　祉
行　政
団　体
市　民

ご清聴ありがとうございました。



郡山市
イメージキャラクター
がくとくん

イメージキャラクター
がくとくんの妹
おんぷちゃん

東北のウィーン
楽都郡山